

厚生労働省は、子どもからお年寄りまで、みなさんの安心で安定した暮らしを支えることを主な役割とする国の機関です。

現在の我が国は、少子・高齢化が進み、若い世代を中心に人口減少の局面となっています。同時に、社会や経済の構造もかなり変化してきており、人々の働き方やライフスタイルも多様化しています。そうした中で、労働者の働く環境の整備や人材の育成、年金・医療・介護といった社会保障の機能や持続可能性の確保、少子化対策など、様々な課題に取り組んでいくことが厚生労働省での具体的な仕事です。

厚生労働省の担当する行政の分野は、人々の日々の生活に密接に関係していることに加え、経済規模もかなり大きなものです。毎年の社会保障給付費は100兆円を超えており、GDPの2割以上の水準となっています。

厚生労働行政の企画立案や業務遂行は、それが経済全体や国民生活に大きな影響を与え得るものであることから、しっかりした『科学的根拠』に基づいていなければなりません。数学や数理科学の専門知識や思考力が必要とされますし、数理的な感性が重要となる場面が多くなっています。そうした素養のある人材が求められています。

厚生労働省では、事務系、技術系、地方自治体や民間企業からの出向者など、様々な知識・技術・経験を持った職員が働いています。それぞれの専門性を活かしたり、お互いに学びあったりしながら、チームとして様々な課題に取り組み、目標に向かって進んでいます。このような、多様な人材が協力して仕事をしていくという職場環境も、厚生労働省の魅力の一つです。

厚生労働省では、毎年、『国家公務員採用総合職試験』の「数理科学・物理・地球科学（院卒者試験及び大卒程度試験）」の合格者から、採用を行っています。

数学や数理科学に関連する分野の素養を持ち、社会や経済に広く眼を向けて仕事をしてみたいと思う方、そして、国民のために働いてみたいと思う方は、是非、このパンフレットに目を通してみてください。我々、数理職の役割や業務を身近に感じていただけたらと思います。



厚生労働省年金局数理課長  
山内 孝一郎